

アートな麻布に魅せられて③ 麻布の家紋

読者の皆様は「江戸切絵図」をご存知ですか？

江戸城下を幾つかの区域に分割し、武家屋敷名、寺社名、地名を記録した区分絵図です。

この切絵図自体もアートと言える程見事なものですが、その中に「大名屋敷」があり、所々名前の上に「家紋」が入っています。入っているところもあれば、入っていないところも…。この切絵図を見ると様々な疑問も浮かび上がってきます。そんな疑問を調べつつ、現在とは違う遠い昔日に思いを馳せて日本の意匠「家紋」を追っていきたいと思います。

日本にはどれ位の大名屋敷の家紋は？

一、江戸時代は、徳川幕府の下に約300の「藩」を置く幕藩体制によって社会を統一して治していました。その藩を率いていたのが「大名」です。大名の力は、領地の生産性や経済規模を表す「石=こく」という単位によって示されていました。大名とは1万石以上の石高を有するものに限られていました。

当時の基準で1石を通貨に換算すると約1両に相当したそうです。つまり、1万石の石高は、約1万両の価値があったということになります。

ちなみに、1両は現在の貨幣価値で約10万円に相当します。つまり大名(≒藩)は最低でも10億円以上の石高(経済規模)を有していたことになります。申し添えるまでもありませんが、当時(江戸時代)の経済水準と現在のそれとを単純に比較することはできません。しかしながら、「さすがは大名」と言われるだけの規模(力)を感じませんか？



一、日本における家紋の数は5,000(5,10,000(それ以上))とも言われており、すべてを把握できないのが現状です。現在の日本では冠婚葬祭用の着物や墓石などに自分の家の家紋を使うことが多く、そのモチーフは古くから日本で親しまれた植物や動物、星など多岐にわたります。デザインを細かく分類すると30,000種類以上の家紋が存在すると言われています。しかし、古来使われている家紋をもとに分離・変形・追加された物が多く、原形が分かる家紋が大半です。

二、江戸時代、**將軍**から諸大名に与えられた江戸藩邸のことを指します。明暦の大火(明暦3(1657)年)後は非常時の備えとして中屋敷・下屋敷が与えられました。上屋敷は主に藩主やその家族が居住し、政庁も置かれていました。中屋敷は隠居した藩主や成人した跡継ぎが住むことが多かったようです。下屋敷は国元からの荷を揚げるため、主に水辺につくられた蔵屋敷です。

現在と比べて大分違いがあるのは当然ですが、今もその名残がある場所はたくさんあります。(流れに沿って)右下から左上に流れているのは「古川」です。今の地図と見比べてみてもそこまで大きく変わっていないことがわかります。この地図でどこが麻布十番がわかりますか？



四、図1で示した「江戸切絵図(麻布図)」によれば、名前の上に家紋が入っているところは「大名家上屋敷」を示しているようです。数えてみると麻布図には17の家紋がありました。家紋そのものの図柄を通して日本の意匠を探るのは勿論、麻布に住まう大名はどの様な人物であったか？(家紋の名前も気になりますよね?)など興味は尽きません。この17の家紋が麻布にどう関わってくるのか、次号以降乞うご期待!

●家紋引用元
家紋のいろは
<https://irohakamon.com/>
公益財団法人 宇和島伊達文化保存会
<http://www.wb.pikara.ne.jp/off-date/index.html>

●参考文献
『江戸切絵図』麻布絵図 著者:景山致恭,戸松昌訓,井山能知//編 出版者:尾張屋清七 出版年月日:嘉永2-文久2(1849-1862)刊
『決定版 知れば知るほど面白い! 江戸三百藩』著者 山本明 株式会社西東社 2011年1月出版
『思わず人に教えたくなる「家紋」のすべてがわかる本』著者 能坂利雄 株式会社新人物往來社 2009年5月出版
『江戸三百藩大全 全藩藩主変遷表付』著者 中山良昭 株式会社廣済堂出版 2015年3月出版

THE VOICE

六本木・麻布エリアに集う若者たちの今の声

ひとり行動が提唱される中、「ソロ活」という言葉のブームが止まらない。ひとりの時間を楽しむ活動のことを言うのだが、誤解してはならないのは、ひとりで行動できる全てがソロ活ではないということ。対人関係がストレスになる社会で、人は時に、ひとり行動したくなる。例えばSNSが趣味という場合、実際にSNSは他者との関係性が生じるため、ソロ活にはならない。なぜならソロ活は、自分ひとりで対人関係なくひとり時間を楽しむための活動であるから。そこで今回は、ソロ(単独)活動を日々楽しんでいる彼の声をお届けする。



大野晴貴さん(おおのはるき)
東京上野に生まれ育ち文京区の大学へ通いながら六本木ヒルズでアルバイトを始め、留学先の米国から帰国後も再び六本木へ。社会人となった現在このまちで日々のソロ活を楽しんでいる。

両親の影響を受けた子ども時代

「両親の勤務先が田町にあったこともあり、上野の自宅から田町へは、よく出かけておりました。両親はジャパンタイムズ*1に勤務しており、生まれた時からソロでひとりっ子の私は、交流が盛んだった両親の勤務先の外国人たちが、私にとっても身近な存在でした。高校進学時、米国への留学を考えており、希望したオレゴン州の高校へ交換留学を視野に進学しました。オレゴン州最大の都市ポートランド市の高校へ、単独で留学した時のある出会いが、その後の六本木でのアルバイトへ続く契機となりました」

ポートランド→六本木、麻布十番→ユージーン、再び六本木へ

「ポートランドは、全米で住みたいまちに選ばれるほど人気があり、シアトル発祥のコーヒーショップが全米に広がる以前から、独自のコーヒー文化が確立していました。ソロで高校生活を送っていた時、コーヒーショップの店員さんから、「ルカ」という愛称で呼ばれるほどフレンドリーとなった素晴らしい経験があり、帰国後は国内で展開されているこの会社のコーヒーショップでアルバイトを始めたいと思い、大学生となり六本木ヒルズ内の店舗で働くこととなりました。ヒルズから麻布十番商店街のまち歩き(ソロ活)を始めたのもこの頃からでした。大学3年生の秋から、国際学に定評のあるオレゴン大学へ

交換留学生として渡米しユージーンでの生活が始まりました。4年生の春に帰国してヒルズでアルバイトを再開すると、感染症の世界的流行で人との交流がなくなり、そこでひとりで活動することを充実出来たらと思うようになりました」



ソロ活が本格的に

「就職して最初の赴任地はマレーシアでした。コロナ禍ということで、あえて室内にこもらず、感染予防に必要な対策を講じて、ソロでからだを動かすスポーツを試みました。行動可能な範囲内での旅行は、スポーツを目的としたソロ活動を。学生時代に始めたゴルフ*2は、現在でも定期的に行っており、ゴルフを含めた屋外で行う、マリンスポーツのサーフィンも、波に乗っている時は、誰とも会話はしませんし、波に乗ることに没頭することでソロ時

間を楽しめました。こうしてコロナ禍のストレスもソロ活で発散できました。

マレーシアから帰国後は、冷凍機の専門商社の営業担当として天王洲アイルに勤務しております。米国、台湾、シンガポール等海外出張の日々が続く中、現在の住まいから3キロ程の距離の六本木、麻布エリアは徒歩圏内ですが、坂道が多いことと便利なところにサイクルポート*3が設置されているため、電動アシスト付自転車*3で足を運んでおります。時間がとれる日は朝からジムへ行き、汗を流した後、まち歩きや散歩をしてソロ活を満喫しています。特に日進ワールドデリカテッセンで世界の様々な食肉を選んだり、本年3月に開店した麻布台ヒルズマーケットへはこれから参る予定です。

馴染みのまち六本木、麻布エリアは、オレゴンと共通した都市感を感じることがあります。外国人が多く多様な価値観が調整され、住む人、訪れる人が居心地よい空間となる、そのようなまちづくりが進められている点にです。こうしたまちに触れ合いながら様々なソロ活を楽しんでいければいいと考えております」

*1 株式会社ジャパンタイムズは1897(明治30)年に創刊された日本最古の英字新聞社。ここ芝浦に英字新聞の碑が残されているのは2018(平成30)年まで本社を構えていたため。
*2 通常は1組2名から4名でプレーするところ1組1名でプレーできる「1人ラウンド」というプレースタイルが増えている。周りへの気遣いなく自分のプレーに集中して、ソロでゴルフを楽しむことができる。
*3 麻布地区総合支所にも自転車シェアリングのポートがある(ナイキ本社があるポートランド市内にもナイキのシェア自転車がある)。



1 英字新聞の碑



2 サイクルポート(麻布地区総合支所)



3 日進ワールドデリカテッセン





令和5年(2023年)8月8日に配信を開始した「麻布みんなのラジオ」は、麻布地域の皆さまおよび麻布地区総合支所の温かいご支援のもと、これまでに4回の配信を行いました。

「麻布みんなのラジオ」は、麻布地区総合支所協働推進課の地域事業「ミナヨク」7期から、麻布地区の新たな「情報発信」のかたちとして麻布の魅力・人・活動を紹介します。さまざまな人々やアイデアがつながり、新しい発見や交流が生まれるきっかけになる場を目指し立ち上げました。

ここから色々な取り組みや交流が広がっていくことを期待して、親しみやすく、馴染みやすい「麻布」「みんな」「ラジオ」という3つのキーワードから「麻布みんなのラジオ」という名称にしました。

外国の方々やリスニングの勉強に楽しんで役立てていただけるよう、日本語版と英語版をYouTubeで配信しています。

現在、麻布地区総合支所から紹介いただいた広尾学園高等学校インターナショナルコースの生徒4名(片山 綺華さん、林 エレナさん、森本 晋さん、渡部 遼成さん)がメンバーとして加わり、一緒に活動しています。



～ラジオメンバーに聞いてみた～



このプロジェクトに参加する前と後で、何か変化を感じた点がありますか。

A: ラジオを聴く習慣がなかったので、電波を使って発信するというイメージが想像できませんでした。

B: 当初、YouTube上に音声や名前を載せ、動画で撮影風景や顔まで映る怖さを感じていました。

C: Audacityという音声編集ソフトで音声編集を行い、YouTubeにアップロード、Instagramを発信する。内容も私たちが取り入れたり様々なことができる、アグレッシブなプロジェクトだと感じています。

D: これからの方向性に迷っていた時に「ワイワイ子ども食堂 Alice's Table」様から取材に来ませんかとお声がけをいただき、私たちが企画・取材ができたことは自信につながりました。

A: 事前に質問を考えたりしましたが、相手をよく知ろうという姿勢でいたら、何気ない会話から意外な話を聞くことができ、自分の世界が広がりました。

B: 先日、麻布みんなのラジオを含む、広尾学園学生コミュニティを設立しました。後輩たちが様々な活動してくれるのではないかと、楽しみにしております。

C: 日本語で伝えることが難しく緊張しました。日本語でのコミュニケーション能力が少し伸びたと思います。

英語版も制作するにあたり、工夫された点や印象に残ったことはありますか。

A: 内容をそのまま英訳しても独自性がないのではと考

過去の配信

Episode 1

ミナヨクとは？

Episode 2

ロボット起業家×地域貢献

Episode 3

インターナショナル子ども食堂って？

Episode 4

文化継承×地域活動



長年乗馬を続けているので、広い場所で馬と一緒に楽しく過ごしたいと思っています。

B: 私は事象が解明されることに興味があり、理科を軸に教科横断的な学部で、世界規模で地球を見つめる学びを追求し、災害予測など色々な分野で人々や社会に貢献したいと思っています。

C: 私は、物事を深く分析して考えることに関心があるので、それを活かすことについて学んでいき提言していきたいです。私にとっての励みは、祖母がこのラジオを楽しみにしてくれたり、周りの方々に自分の成長を喜んでもらえることです。家族には深く感謝しております。

D: 私は人と分かり合いたいと思い、さまざまな活動に打ち込んできました。法や政策について、より議論が深められる環境に身を置きたいと考えています。

常に周りの方がサポートしてくれていることに感謝しているので、つながりを大事に生きる人になりたいと思っています。

ラジオ番組制作や配信という初めての経験の中で試行錯誤を重ねたことや自分たちの夢について、率直にお話しいただきました。

これからの皆さんの夢について聞かせてください。

A: 自ら仮説を立て、実験を行い、結果を分析することに、興味があります。早い段階から経験を積むことができる環境に身を置きたいと思っています。



Instagram: @azabu_radio



Instagramはこちらになります。



ジャマイカ

面積:10,990平方キロメートル(岐阜県とほぼ同じ大きさ)(世銀)
 人口:282.7万人(2022年世銀)
 首都:キングストン
 言語:英語(公用語)、ジャマイカ・クレオール語(いわゆる「パトワ語」を含む)
 元首:チャールズ三世国王
 議会:二院制(上院21名、下院63名)

参考:外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/jamaica/data.html>
 取材/ジャマイカ大使館

ジャマイカ

JAMAICA



大使を訪ねて 麻布の"世界"から

多様な文化で進化する「ONE LOVE」 それがジャマイカ

青い空、澄んだ海、レゲエ音楽がどこからともなく聞こえてくる白いビーチ。今回大使公邸にお招きいただき、ショーナ・ケイ・リチャーズ(Shorna-Kay M. Richards)駐日ジャマイカ特命全権大使(以下大使と表記)にお話を伺いました。

日本とのつながり ～長崎、広島から平和への強い思い

国連軍縮諮問委員会議長を兼務されている大使。2005(平成17)年、国連フェローシッププログラムで初来日。「長崎、広島で研修を受け、被爆者とも接し、原爆体験の悲惨さを目の当たりにし、心を動かされました」。研修最終日にプログラム参加フェロー代表として「もし私が国連で働くことになったら、被爆者の訴えを受け止め、彼らのような苦しみを誰にも与えないようにし、核軍縮の為に働くことに誓った」と挨拶された。

2020(令和2)年駐日ジャマイカ大使に就任。「15年前に広島で平和を誓った時はまさか駐日大使になるとは思いませんでした」。そう語られた大使からは深遠で厳かなエネルギーが伝わってきた。

“おもてなし” “もののあはれ” “一期一会” “和”

日本では「誰もが温かく接してくれたことが、日本人の魅力の一つ“おもてなし”として深く心に刻まれました」

「季節ごとの自然の移ろい、全てが永遠ではない、桜の花見のようにその時にしかない美を楽しむのは本当に素晴らしく、日本で体験したことの全てが特別で、“一期一会”という言葉が大好きです」

“和”という考え方に感銘を受けており、「日本は人間と自然、現代と伝統の“和”のバランスが非常に良い」日本のこういうところをとても愛しているの、「もし日本を離れることになったらセラピーを受けることになるでしょ

う」と話された大使の笑顔はとてもチャーミングだった。

大使館から近い麻布十番商店街が お気に入り

「麻布十番商店街は最新のトレンドと昔ながらの温かさが両方残っていますね。例えばお気に入りのお花屋さんでは、顔馴染みの店主さんが小さなお花をおまけとして下さることがあり、心が温かくなります。ジャマイカでも人と人の繋がりを大切にしており、このようなお店を訪れると、首都キングストンを思い出します」



日本食とジャマイカ料理

大使は、リラックスさせてくれる蕎麦、刺身、ゆず、お餅、焼きそば、なんと納豆も大好物！おにぎりも好きで、YouTubeで紹介されている。五感全てで感じながらいただく懐石料理も大好きとのこと。

一方、ジャマイカ料理のお勧めを伺うと「たくさんのスパイスが入ったジャークチキンと、世界ではジャマイカ人だけが食べるアキ。アキはフルーツですがウサイン・ボルト(Usain St. Leo Bolt)(1986～)選手は2009年、男子100mで9秒58の前人未到の世界新記録を樹立。2024年9月現在も、記録は破られていない。



8 大使によるコーディネート。自らがアレンジして下さり、ブルーマウンテンコーヒーやアキという果物などジャマイカの名産品やTHE AZABUのカードがバナナの横に添えられて、大使のおもてなしの心が伝わってくる。



9 ジャマイカ料理。上はジャマイカのソウルフード、ジャークチキン。大使の得意料理でもある。下はアキとフルーツの数々。ジャマイカの自然の豊かさが感じられる。



10 ジャマイカブルーマウンテンコーヒー

ジャマイカでは鰯と一緒に調理するメニューがあります。また、米と豆をココナツミルクで長時間かけて炊き上げるライス&ピースという日本の赤飯のようなものも。どれも大使の得意料理。

“ONE LOVE” “Good Vibes Only”

「ジャマイカは人口290万人、面積は岐阜県とほぼ同じです。困難な歴史から強い精神を持ち、楽観的で希望に満ちて歩んできました。そこから生まれた音楽やダンスは、人々にインパクトを与える力があります。ボブ・マーリーの歌詞は様々な紛争解決への普遍的メッセージとなっています」と熱く語られた。

麻布地区とジャマイカの未来

「文化は人々を繋ぎ、文化を知ることで相互理解を深めることができます。引き続き港区とも協力し、料理教室など様々なイベントを通して、ジャマイカ文化を伝えていきたいと思っています」と抱負を語ってくださいました。

大使はフレンドリーなのに、凛としたオーラを纏っている、そんな印象でした。唯一の被爆国日本、日本人からもっと平和について発信して欲しい、とのお言葉は胸に響きました。

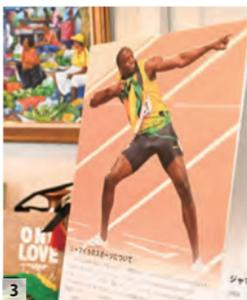
HP <http://jamaicaembassy.jp/indexJ.html>



1 どこまでも続く青い海原。国内には世界トップクラスの美しさが誇るビーチがいくつもあ



2 サトウキビが原料の名産品のラム酒を使ったカクテルも種類が豊富で人気。ただしアルコール度は40～50度とかなり高めなので、飲み過ぎにご用心。



3 ジャマ



4 首都キングストンには100以上の店が出店するジャマイカ最大のクラフトマーケットがある。こちらも所狭しとお土産が並ぶ。



5 竹のいかだでのんびり川を下る「リバーラフティング」は観光客に人気のアクティビティ。



6 今回取材時に大使の背景にジャマイカを誇る伝説的アーティスト、ボブ・マーリー(Bob Marley)(1945～1981)を記念した飾りつけが見えた。2024年、伝記映画「ボブ・マーリー・ONE LOVE」が大ヒットしたボブ・マーリーはレゲエの神様と呼ばれ、彼の名曲「ONE LOVE(ワンラブ)」は多様な民族が共存するジャマイカの精神を表す言葉となっている。



7 ジャマイカ初の世界遺産 ブルー・アンド・ジョン・クロウ・マウンテンズ(Blue and John Crow Mountains)国立公園。高級コーヒーとして日本にも愛好者の多いブルーマウンテンの産地として知られるブルーマウンテン山脈を含む国立公園。絶滅危惧種の鳥や西半球最大の蝶などの生息地でもある。

●写真提供/1 2 4 5 7 9 10 ジャマイカ大使館(取材・文/Sumiko、飯泉千種、高柳由紀子)

地域社会
の
ゆくえ
29

神谷町駅から麻布台エリアを結ぶ全く新しい商店街 「麻布台商店街」始動！

令和5(2023)年11月、主に神谷町駅から東京タワーまでのエリアの活性化を目指す「麻布台商店街」が誕生しました。地域住民・企業・高校生・大学生が一体となり、地域の魅力を発信する取り組みが進行中。今後の展望と、商店街が地域にどんな新風を吹き込むのか、関係者にお話を伺いました。



麻布台商店街メンバー

●「麻布台商店街」とは？——大切にしているのは「地域と世代を超えた協働」

「麻布台商店街」は、神谷町駅から麻布台周辺エリアで商店、町会、企業が一体となって生まれた革新的な区民協働プロジェクト。地元企業、スタートアップ企業、そして大企業からの参画も得て、PTA会長、地域のIT起業家、地域サポーター、高校生や大学生のインターンなども加わり、現在は核になる50名ほどが様々な共創に取り組んでいます。多様なバックグラウンドの人々が一体となって取り組んでいることで、新たな価値を生み出しています。

街とのつながり

小林徹さん(麻布台商店街顧問、飯倉町会会長、西久保八幡神社総代)

18年間町会会長を務めています。かつて、町会同士が協力した結果、昭和39(1964)年の東京オリンピック開催が実現しました。また麻布小学校も開校150周年となります。街の力で日本の国も前向きに進み、次世代に残せる街づくりを進めていきたいと考えております。



左から小林さん、野村さん

野村知義さん

(麻布台商店街顧問、飯倉三・四丁目町会会長)

麻布台商店街との繋がり、麻布地区の伝統的なイベント「かかし祭り」で、令和5(2023)年秋に「ミナヨク」の活動として参加された伊澤さんとかかしロボット製作について話したことがきっかけでした。その後、伊澤さんから、地域のお祭り、ロボットとプログラミングを子供たちに教える企画を通して企業や学校も参加し連携が進んでいます。地域の伝統文化を大切にしつつ、若年層と新しい取り組みを進めたいと思っています。

企業・店舗の思い

「神谷町ナビゲーター」中村拓都さん
(森トラスト株式会社 広報・マーケティング部)

麻布台商店街との協業により、地域の魅力を引き出し、商業エリアの発展に寄与することを期待しています。森トラストが掲げる、神谷町エリアを発展させるための4つのテーマ(オープンイノベーション、スマートテクノロジー、ウェルネス、SDGs)は、麻布台商店街が推進している次世代型の商店街づくりと共鳴しています。伊澤さんが持つ起業家としての視点と、大企業の視点を活かしながら、地域と企業が連携していく機会を創出することに期待しています。「神谷町ナビゲーター」として「神谷町めぐまちプロギング」の企画も含め、自社のH.P.に神谷町の情報発信をしています。



左から伊澤さん、時永さん、中村さん

時永祐香さん(神米茶寮 女将)

神米茶寮※は、地域の食文化を活かしつつ新たなビジネスの展開を図るプロジェクトで、地域の素材を活用した新しい飲食体験を提供しています。地域の魅力を再発見し、地元と訪問者双方に愛される店づくりを目指しています。

※神米茶寮はインターン生と菓子の製作・販売をしてきた麻布台商店街が、100%米粉を使ったグルテンフリーのスイーツを提供し、日本の伝統の素材と革新を融合させた新しいカフェ。令和6(2024)年8月21日のプレスリリース「森トラストと麻布台商店街 神谷町、麻布台エリア活性化に向け連携協定を締結」のニュースで注目されています。

会長もスタートアップ育ち！

麻布台商店街会長 伊澤 諒 太さん
(Proof of Japan株式会社代表取締役)



次世代型の商店街として、住民と「産・官・学・街」の連携を築き、新しい価値を創造することで地域をより良くしていくプロジェクトです。

麻布地区総合支所協働推進課の地域事業「ミナヨク」(以下、ミナヨク)で町会長と知り合い、世代や地域を超え麻布台商店街の立ち上げにつながりました。地域の商店・企業・地域住民・高校生・大学生がこの地で互いに学び合い、持続可能な発展を目指しています。2024年1月には高校生が商店街で起業体験できる東京都教育委員会のプログラムにも協力するなど、次世代のイノベーターを育てる街づくりに挑戦し、街の魅力を国内外に発信※しています。

※地域の人にも訪れる人もこの街の魅力を再認識できるよう、メンバーが協力して神谷町から東京タワーまでの情報を集めて、紙媒体とデジタル版の両方で広報誌を作るプロジェクトが進行中。

高校生・大学生たちの声

ほしな 保科りさ子さん(高校3年)

麻布台商店街で起業体験し、店舗に高校生を呼び、300人の訪問者と30万円の売上を達成しました。大都市でありながら地域のつながりがあったことに驚きました。

やまだ 心優さん(高校2年)

私も麻布台商店街で起業体験しました。高校生のプログラムを受け入れてくれ、温かい商店街という印象を受けました。

にしりゅうた 西隆太さん(高校3年)

地域のビル開発の裏には街の緑化をテーマにしているという話を聞いて、積極的に地域活動をしたいとなりました。

こんどう ひな 近藤陽菜さん(大学4年)

神谷町のプロギング(ジョギング)を行いながらゴミを拾うスポーツ)イベントに参加。次は自身で街に関わるイベントを企画、情報発信をします。

はやし 林エレナさん(高校3年)

ミナヨク事業の「麻布みんなのラジオ」(P.3参照)に参加して、麻布の街づくりに関心を持ちました。進学しても情報発信を続けたいと思っています。



左から林エレナさん、保科りさ子さん、山田心優さん、西隆太さん、近藤陽菜さん



打ち合わせ風景

麻布台商店街

<https://azabudai.tokyo/>



(取材・文/佐藤正子、堀内明子、加生美佐保)

●これから取り組みたいこと

麻布台商店街としては、地域の防災対策の強化、最新テクノロジーを活用した街づくりの推進、商店街のデジタル化の促進など、地域のニーズに応じて、多様な新プロジェクトを積極的に展開しながら活動を拡大していきたいという。麻布台商店街が、地域と世代を超えた協働を通じて、麻布台・神谷町エリアをさらに魅力的で活気あふれる場所にしていきたいことを期待しています。

●取材を終えて

インタビューには多くの方に集まって頂きました。親子ほども年齢の離れている町会長と企業家、高校生・大学生たちが一緒になって地域の話をする姿に、まさに世代を超えた未来を感じました。

三井ゆかりの土地と建物(前編)——戦前の今井町本邸とその周辺——

麻布の軌跡



三井ゆかりの場所を現在の地図上に図示(青字は後編で紹介)

名称(居住時期)	当時の住所	現在地
1 北家1(戦前)	今井町42	六本木2丁目 米国大使館職員宿舎
2 住友吉左衛門別邸	市兵衛町1丁目3	六本木1丁目 泉ガーデン
3 伊皿子家	中ノ町20	六本木3丁目17
4 永坂町家2(大正後期)	永坂町1	麻布永坂町1
5 永坂町家1(大正前期)	東鳥居坂町6	六本木5丁目 フィリピン共和国大使館
6 井上馨邸1(明治前期) 岩崎小彌太郎	鳥居坂町3	六本木5丁目 国際文化会館
7 一本松町家	一本松町20	元麻布1丁目 オーストラリア共和国大使館
8 馬越恭平邸	北日ヶ窪町46	六本木6丁目 テレビ朝日本社ビル
9 牧田環邸	北日ヶ窪町43	六本木6丁目 テレビ朝日本社ビル
10 井上馨邸2(明治後期)	宮村町40	元麻布3丁目
11 北家2(戦後)	筈町4	西麻布3丁目 パークハウス西麻布
12 時習舎	筈町146	西麻布4丁目 若葉会幼稚園
13 筈町集会所	筈町172	西麻布4丁目 パークウェルステイト西麻布
14 本村町家	本村町169	南麻布3丁目 イランイスラム共和国大使館
15 綱町別邸	(芝区)三田	三田2丁目 綱町三井倶楽部



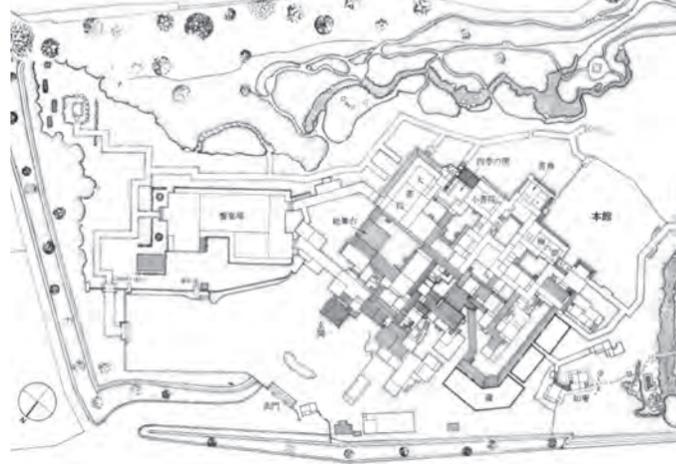
三井八郎右衛門高棟

昭和戦前期、三大財閥である三井・三菱・住友の総領家邸宅がすべて六本木エリアにあった。三菱4代目当主 岩崎小彌太郎は鳥居坂町の約4千坪の敷地に⑥、住友15代目当主 住友吉左衛門友純別邸は市兵衛町の約3千坪の敷地に②、いずれ劣らぬ豪邸を建てていたが、三井総領家10代目当主 三井八郎右衛門高棟男爵邸①の壮大さは別格であった。総領家の周辺には、一族の邸宅、賓客接待所、子弟の教育機関なども集まり、三井にとって麻布は縁の深い土地であった。ゆかりの場所を前後編にわけて紹介する。

三井11家
三井の資産と事業は、創業者の子孫である11家の共有であり、各家はその居住地名で通称されていた。総領家は京都油小路町の北側に屋敷があったので「北家」と称され、明治中期の東京移転後もこの呼称が継続した。「鳥居坂家」→「永坂町家」など移転に伴い呼称が変わった家もあった。

総領家本邸

総領家(北家)の邸宅は、その所在地名から「今井町本邸」と称された。敷地面積13,500坪(役宅などのある周辺地を含めると16,000坪)は、現在の赤坂アークヒルズ全体の敷地面積(約12,500坪)をも超える広大なもの。明治41(1908)年に完成した本館14棟のほか、のちに国宝となる「如庵*」を含む茶席3棟、土蔵3棟、温室、テニスコートなどがあり、高棟の長男 高かみが結婚する大正9(1920)年には、買い増した隣接地に日本館と洋館から成る「新館」も整備された。*本紙14号で紹介



本邸平面図(部分)

饗宴場

大正11(1922)年に英国皇太子の台臨が決定。当時賓客接待所として綱町別邸⑮を有していたが、「洋館より日本座敷や能舞台のある今井町本邸が良からう」と敷地内に建坪200坪の饗宴場を新築。皇太子は、晩餐会の余興に演じられた能「紅葉狩」をことのほか気に入られたという。饗宴場は震災後の改修を経て長く利用された。

被災者収容施設

華麗な饗宴の一方で、大正12(1923)年9月1日に関東大震災が起これると、三井はいち早く救済本部を結成。支援の一つとして今井町本邸と周辺の所有地約400坪を開放し、応急住宅(バラック)を建設して、被災者を受入れた。入居者145名から三井家に贈られた感謝状綴りに当時の風景画が4枚添えられている。下はその1枚で、画面手前中央に本邸玄関の屋根、奥に正門、その右手にバラックが描かれている。



今井町邸内バラック(村上委山作)

一族の邸宅

三井11家のうち下記の4家が麻布に居住していた。
 ・伊皿子家(三井元之助)は明治31(1898)年に京都から東京へ移住。大正期に居住した中ノ町20は元福澤捨次郎(福澤諭吉次男)邸③、隣の中ノ町19は北里柴三郎邸であった。昭和初期に芝区伊皿子50に移転。
 ・永坂町家(三井守之助)は、大正8(1919)年に東鳥居坂町⑤から永坂町④に移転。この時鳥居坂邸の一部が軽井沢万平ホテルに移築され、現存している。総檜造りの端正な和館だ。
 ・本村町家(三井養之助)は、大正3(1914)年から本村町に居住⑭。昭和10(1935)年に書院の一部を野方の三井家墓所に移築して同族用休憩室に転用、本村町の跡地には洋館を建てた。
 ・一本松町家(三井得右衛門)は、大正12(1923)年から一本松町に居住⑦。

三井重役の住まい

今井町本邸の近隣に三井の重役宅も見つかった。政治家で三井家の顧問でもあった井上馨は今井町本邸の土地取得前から「鳥居坂邸」(後の岩崎小彌太郎)⑥に住み、晩年は宮村町の「内田山邸」⑩で暮らした。又、三井物産勤務を経て「ビール王」となった馬越恭平と、三井合名理事長団琢磨の娘婿で三井鉱山のトップ経営者牧田環の自邸は隣同士。大正2(1913)年に駒沢に移転した曹洞宗大学の跡地を二人で約2千坪ずつ分割して購入したという⑧⑨。

昭和20(1945)年5月の空襲で、贅を尽くした今井町本邸・饗宴場をはじめ、ここに記した邸宅の総てが灰燼に帰す。わずかに焼け残った牧田環邸洋館も占領軍に接収され、後にアルゼンチン大使館に譲渡された。



野方墓所休憩室(日本村町家書院)

- 主要参考文献●
- 『三井八郎右衛門高棟伝』財団法人三井文庫、1988
- 石田繁之介『三井の集会所 有楽町から札幌まで』日刊建設通信新聞社、1993
- 石田繁之介『三井の土地と建築』日刊建設通信新聞社、1993
- 森川英正『牧田環伝記資料』日本経営史研究所、1982
- 図版提供●
- 公益財団法人 三井文庫、東京都立中央図書館(本邸玄関写真)

(取材・文/八巻綾子)



本邸玄関



饗宴場外観



英国皇太子招待余興目録(英文/和文)

都税事務所からのお知らせ



都税がスマートフォンアプリで納付できます

都税の納付にスマートフォン決済アプリを是非ご利用ください。アプリ内で納付書のバーコードを読み取るだけで、いつでも、どこでも、簡単に納付できます。詳細は、東京都主税局ホームページをご確認ください。



主税局 HP

https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/common/tozei_nouzei.html#L16

eLTAX電子納税が大変便利です

地方税共通納税システムでのeLTAX電子納税が大変便利です。インターネットバンキング等での納付やダイレクト納付に加え、クレジットカード納付も可能です。



eLTAX HP

詳細はeLTAXホームページをご確認ください。

<https://www.eltax.lta.go.jp>

来所せずにお手続きができます

東京都主税局では、納税者の皆様が都税事務所等に来所することなく、郵送やインターネット等でお手続きできる仕組みを設けております。郵送や電子による申告、申請・届出、キャッシュレスによる納税方法等をぜひご利用ください。



主税局 HP

詳細は、東京都主税局ホームページをご覧ください。

<https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/raicyou.html>

不動産登記申請時には課税明細書がご利用いただけます

不動産登記の申請を行う際には、登録免許税の算定のため、固定資産の価格を記載する必要があります。その価格は、「固定資産税・都市計画税 納税通知書」と一緒(6月)にお送りする、課税明細書でご確認いただけますので、有料の評価証明は原則不要です。



主税局 HP

詳しくは東京都主税局ホームページをご確認ください。

https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/shitsumon/tozei/index_o.html#o31

東京ゼロエミ住宅の新築に対する不動産取得税(家屋)を減免します(23区内)

減免の対象と額は以下のとおり

- 減免の対象:一定の要件を満たす新築の東京ゼロエミ住宅
- 減免割合:住宅に係る不動産取得税を最大で10割



主税局 HP

減免を受けるには申請が必要です。また、この他にも、耐震化促進税制等、住宅を新築したときに軽減を受けられる場合があります。

詳細は、東京都主税局ホームページをご覧ください。下記へお問い合わせください。

問合せ/港区にある物件について 港都税事務所 電話/03-5549-3800(代表)

認定長期優良住宅(一定の要件を満たすもの)を新築した場合、固定資産税が減額されます~1月31日までに申告してください~

- 期間:新たに固定資産税が課税される年度から5年度分(3階建以上の耐火・準耐火建築物については7年度分)
- 軽減税額:固定資産税額(居住部分で1戸あたり床面積120㎡相当分までを限度)の2分の1を減額

住宅が新築された年の翌年(1月1日新築の場合はその年の)1月31日までに、減額の申告が必要です(ただし、区分所有住宅の管理者等の場合は変更認定通知書の写しの提出で上記申告に代えることができます)。

詳細は、東京都主税局ホームページまたは下記問合せ先へ。

問合せ/港区にある物件について 港都税事務所 電話/03-5549-3800(代表)

不動産取得税における認定長期優良住宅の特例について

令和8年3月31日までに一定の要件を満たす認定長期優良住宅を新築した場合、または新築未使用の認定長期優良住宅を購入した場合の不動産取得税については、住宅の価格(評価額)から1,300万円(価格が1,300万円未満である場合はその額)が控除されます。

認定長期優良住宅の特例適用を受けるには申告が必要です。詳細は、東京都主税局ホームページまたは下記問合せ先へ。

問合せ/港区にある物件について 港都税事務所 電話/03-5549-3800(代表)

麻布地区
地域事業

“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。

毎月、麻布地区のいきいきプラザ5館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

会場及び内容

イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆ 飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11	◆ 南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26
11/6(水) ボッチャ	11/27(水) 笑いヨガ
12/4(水) お正月飾り作り	12/25(水) クリスマスお楽しみ会
1/8(水) 新年会(ゲームとおしゃべり)	1/22(水) 篠笛コンサート
◆ ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7	◆ 麻布いきいきプラザ 元麻布3-9-6
11/14(木) 懐かしい思い出を語り合いましょ	11/23(土) クリスマスリース作り
12/12(木) クリスマス飾り作り	12/28(土) 年末コンサート(ヴァイオリン・ピアノ)
1/9(木) 津軽三味線コンサート	1/25(土) アロマハンドマッサージ
◆ 西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3	*プログラムは変更することがあります。最新のプログラム等は区ホームページでご確認ください。
11/21(木) クリスマスグッズ作り	
12/19(木) クリスマスコンサート(チェロ・ピアノ)	
1/16(木) 新春落語	

時間 毎回 午後1時30分から午後3時30分頃まで

対象 どなたでも

参加費 無料

申込み 不要です。直接会場にお越しください。

問合せ/麻布地区総合支所区民課保健福祉係

電話/03-5114-8822



令和6年度 港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します

過去の災害の教訓を踏まえ、今後発生が懸念される首都直下地震等の災害に備えるために、港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します。

日時 令和6年11月16日(土)

9:30~11:30 予定

場所 港区立六本木中学校(港区六本木6-8-16)



訓練内容 校庭や体育館での訓練があります。詳細は麻布地区総合支所協働推進課のX(旧Twitter)をご確認ください。



麻布地区総合支所協働推進課 X

防災を楽しく学ぼう
「防災訓練シールラリー」

校庭と体育館、それぞれの訓練を体験、
防災13点セットをゲットしよう!

港区麻布地区総合支所だより



みんなのアイデアでまちを変える 令和6年度「みんな」でまちを「よく」する『ミナヨク』メンバー募集～

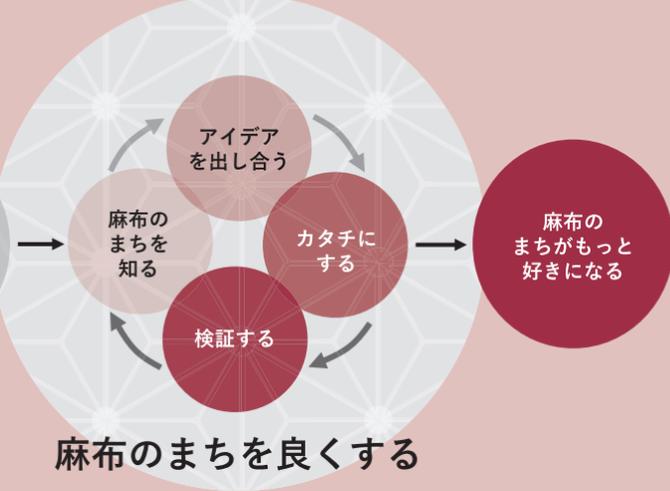


ミナヨク “メソッド”

ミナヨクでは、「麻布」というまちを学び知り、地域の課題解決に向けたアイデアを考え、自らが主体的に地域に関わることで、「麻布」への愛着を醸成します。

港区麻布地区総合支所では、「麻布で」地域のちから“活性化事業”の一つとして、「今の時代に合った新しい地域づくりの在り方を検討すること」、「次世代のまちの担い手を発掘・育成すること」を目的として、地域コミュニティ活性化事業である「ミナヨク」を実施しています。

みんなで集まる



麻布のまちを良くする

地域を学び知る

地域住人と話し、自らの足でまちを歩き、五感を使って地域を感じて、地域の良いところや悪いところを探す。

愛着を醸成する

地域の課題を探し、その課題について話し合い、解決のアイデアを考え、実行する。地域に向き合い関わることで、地域を好きになる。

これまでの取組

令和5年度までに約100名のメンバーと、様々なゲストとの対話、フィールドワーク、地域課題解決のためのアイデア検討、発表等を実施しました。

過去の取組の詳細については、ミナヨクホームページ(下記2次元コード)からご覧ください。



1 麻布を知る

地域行事への参加や準備・片付けに関わることで、地元の人たちとの接点をつくる。

2 アイデアをつくる

麻布で小さな活動をスタートした人たち、暮らしを楽しんでいる人たちからヒントを探る。

3 対話する

麻布に愛着を持つ人たちと対話を重ねることで、視野を広げ、思考を深める。

4 やってみる

「麻布をみんなでよくする」イメージを膨らませ、仲間とともに企画してみる。小さくスタート!

令和6年度「ミナヨク」メンバー募集のお知らせ

～仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、地域の活性化に取り組む若い人材を募集します～

開催日程(予定) ※原則、全日程にご参加ください。

Day1	令和6年12月21日(土)	13:00～17:00	キックオフ・ミーティング
Day2	令和7年1月18日(土)	9:00～17:00	フィールドワーク①
Day3	令和7年2月1日(土)	9:00～17:00	フィールドワーク②
Day4	令和7年2月15日(土)	13:00～17:00	プランニング
Day5	令和7年3月1日(土)	13:00～17:00	プレゼンテーション

開催場所

麻布区民協働スペースまたは東麻布区民協働スペースを予定

対象

- まちの活性化に取り組む意欲のある方
 - 麻布でのコミュニティデザインに興味・関心のある方(学生、子育て世代、働いている方など)
- ※就学前のお子さんの一時保育も可能です。(4か月から就学前、3人程度)

定員 約20名 参加費 無料

応募方法

- 応募フォーム 右のミナヨクホームページからお申込ください。

応募期間 令和6年12月5日(木)まで

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話/03-5114-8812

ミナヨク
ホームページ



ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください



住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。



「ザ・AZABU」は英語版も4カ月後に発行しています。

買い物するなら地元の商店街で

フォローをお願いします!



麻布地区で開催されるイベントや地域の出来事など様々な話題をX(旧Twitter)で配信しています。

https://twitter.com/minato_azabu



各支所では、地域情報紙(情報誌)

- 芝地区総合支所「しはタグ」
- 高輪地区総合支所「みなとつづ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあつぷ」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」

を定期的に発行しております。支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧可能です。

編集後記

家紋は家族を識別するために用いられてきた日本の紋章です。その小さな形の中に優れたデザインと美しさが相まって、古くから世界中の人々を魅了してきました。某ブランドのファブリックパターンに日本の家紋が使われていることは余りにも有名な話です。今回、麻布に関わる家紋を取り上げましたが、家紋は偉人のためにだけあるものではなく、私たち、それぞれの家族が受け継ぐ身近な伝統文化です。この記事がご自身のルーツや家紋に興味を持つきっかけになりましたら、うれしく思います。(畑中みな子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。

年中無休/午前8時～午後8時

※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752

お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service

Minato call is a city information service, available in English every day from 8 a.m. - 8 p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;

Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>

ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)、各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所、港区観光インフォメーションセンター等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff
飯泉千種 富田弥生
井上まゆみ 奈良美扶
井口真莉奈 畑中みな子
おおばりか 樋口政則
加生武秀 武藤佳菜
加生美佐保 堀内明子
佐藤正子 堀切道子
高柳由紀子 八巻綾子
田中亜紀 Mai S.
田中康寛 Sumiko

通訳協力 曾我陽菜 園田笑那
(広尾学園高等学校)